

平成 27 年度ひろしま県民活動表彰応募募書

活動名	<ul style="list-style-type: none"> ・ナマズ養殖による地域活性化
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・広島県立油木高等学校のある神石高原町は過疎化・高齢化が激しく、また棚田状の小区画の水田が多いことや米価の低迷などが一緒になり、至る所に耕作放棄地が存在し、その面積は町内の耕地面積の約 30%にもなっている。 ・増え続ける耕作放棄地を活用し、地域活性化に繋げていきたいが、高齢化の中、手間のかかる園芸作物の栽培は難しい。比較的手間がかからず、収益につながるものはないか。
課題解決のための取組	<p>(目的及び取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域で増え続ける耕作放棄地を深さ 80 cm 程度の池に変え、ナマズ養殖を行い地域活性化に繋げていきたいと考えた。ナマズは泥水でも養殖でき、技術的に難しいが、産卵・孵化という稚魚生産も可能で、完全養殖もできる。また自動給餌機を利用すれば養殖そのものはほとんど手間もかからない。 <p>(創意工夫)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ナマズは癖のない味で、刺身、かば焼き、照り焼き、天ぷらなど様々に料理でき、DHA や EPA、ビタミン B、コラーゲンなど多く、健康食品としても期待できる。しかし日本ではナマズを食べる習慣はほとんどなく、見た目の悪さからゲテモノに近い感覚で扱われることもある。ナマズの美味しさを多くの人に理解してもらおうと、様々な場面を利用してナマズ料理を提供してきた。またナマズ料理についても様々に工夫した。 ・ナマズは表面がぬるぬるしており、3枚に卸すことが難しい。スムーズに3枚に卸すため専用のピーラーを見つけ出し、皮をはいで3枚に卸すという工夫をした。 ・サギやウなどナマズの鳥害という問題があり、池の上に防鳥ネットを張る必要がある。しかし市販の防鳥ネットでは、冬に雪が積もり破れてしまう。キュウリ栽培用のネットやフラワーネットなどを利用し、防鳥と雪対策、耐久性の向上を図った。 ・大きな池から必要な数だけナマズを捕まえることが難しい、手作りの底引き網を何度も改良してナマズを収穫できるようにした。
他団体等との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・行政（神石高原町）との連携 町内唯一の高校であり、地域活性化に関わる取り組みということから、様々な場面で連携している。具体的には、廃校になった町内の小学校のプールをナマズ養殖のために無償で提供してくださったり、ナマズの稚魚生産のため、町内の耕作放棄地を稚魚生産池にして下さったり、町のイベントに招待してくださったりなどである。

	<ul style="list-style-type: none"> ・草木自治振興区との連携 本校が主にナマズ養殖しているのは、旧草木小学校のプールである。本校の実践をまじかで見られている、草木地区の方たちが、一緒にやろうということで、地域の耕作放棄地を池に変えられナマズ養殖を実践してられる。現在3つの池で養殖されているが、今後ますます増やしていかれる予定である。 ・JA, 生協ひろしま 地域活性化のための本校の取り組みに注目していただき、できることがあれば協力したいと言ってくださっている。具体的にはJAは養殖用の飼料の提供が可能かどうかなどであり、生協ひろしまはナマズの商品化と販売である。 ・広島東洋カープ 非常に面白い実践で、何か協力したいということから、毎年マツダズームズームスタジアムの公式戦で本校のナマズ料理を販売させていただいている。 ・県立広島大学生命環境学部, 広島大学VBL (ベンチャービジネス・ラボラトリー) と連携し、ナマズ養殖を地域に広め、産業にしていく方法を模索している。また機能性を生かした商品開発も考えている。 ・学校を中心に様々な機関や組織と連携し、ナマズ養殖の可能性を模索している。いろいろな組織が連携することで、よりナマズ養殖が具体化し、ナマズ養殖で地域を活性化して行こうという空気が生み出されている。
<p style="text-align: center;">事業費</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・取組に必要な事業費の主な収入について該当するものすべてにチェックしてください。 <p> <input type="checkbox"/>会費 <input type="checkbox"/>自主事業 <input type="checkbox"/>行政委託 <input type="checkbox"/>企業委託 <input type="checkbox"/>補助金・助成金 <input type="checkbox"/>寄付金 <input checked="" type="checkbox"/>その他 </p>
<p style="text-align: center;">成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本校の学園祭, 地域のイベント, 広島フードフェスティバル, マツダ球場での販売を通して、ナマズの美味しさをPRできた。 ・月に1度, 近くの産直市の食堂を利用させていただき, 生徒でナマズ料理の店を営業している。地域にナマズを食べられる店ができ, 地域に活気が出てくるとともに, 高校生と地域の方との結びつきができるとともに, 接遇のマナーなども身についた。 ・町の協力もあり, 難しいとされているナマズの稚魚生産に成功した。今年度は共食いの終了する8cm以上の稚魚を1381匹育てることに成功し, 完全養殖ができる可能性が大きくなった。 ・ナマズ養殖を通して, 地域の課題や地域の将来を考えることができた。また事例のない新しいことに挑戦することで, 様々な発想や思考をするとともに, チャレンジ精神も身についた。 ・地域の方と接する機会が増え, 生徒は社会性を身に付けるとともに, 高校生とかかわりが持てるということで地域の方も喜んでおられる。 ・自分たちの実践を様々な場面で発表することで, 実践をまとめていく力とプレゼンテーション能力が身についた。

<p>今後の展開</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域と連携しながら大量の稚魚生産ができる方法を考え、ナマズ養殖を地域に広めていく。 ・個々の農家がナマズ養殖を始めるという状況を作っていくことは、ナマズが儲かるという実績がない中では難しい。町と連携しながら、地域の農業法人や営農集団でナマズ養殖ができないか模索していく。 ・ウナギが絶滅危惧種となり、ウナギに変わる食材としてナマズが注目されている。より付加価値をつけるためにも、ウナギ味に近いナマズを研究していく。当面広島大学VBLや株式会社科学飼料研究所と連携を密にし、ウナギ味に近づく飼料の研究をする。 ・本校のナマズ粉末を利用した、ナマズパイやナマズクッキーを考える。地域のお土産が少ない地域なので、地域のナマズを盛り上げるために効果があると考えている。 ・町やJAなどと連携し、6次産業化などにかかわる補助金なども活用しながら、ナマズの加工場を町内に立ち上げる取り組みを行う。 ・ナマズのメスからは比較的多くの魚卵が取れる。加工方法を研究して卵に付加価値をつける研究を行う。 ・カープ球団と連携し、マツダ球場での常設メニューとしてナマズ料理を提供していく。 ・様々なナマズ料理を研究し、ナマズの美味しい食べ方を情報提供していく。
<p>他の受賞歴</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・2014年・第4回地域再生大賞・優秀賞・共同通信社、地域再生大賞実行委員会 ナマズプロジェクトの実践 ・2014年・第2回イオンe co-1グランプリ・審査員CWニコル特別賞 公益財団法人イオン1%クラブ・ナマズ養殖による地域活性化と地域環境保全 ・2015年・第25回全国産業教育フェア三重大会・奨励賞・公益財団法人産業教育振興中央会 ナマズ養殖にかける地域の未来 ・2016年・第5回毎日地球未来賞・奨励賞・毎日新聞社・ナマズ養殖にかける地域の未来

注：記入内容について、ヒアリング、協議をさせていただくことがあります。

記入スペースについては必要に応じて幅を増減、又は別紙添付（A4サイズ）により記載して差し支えありません。

なお、参考資料として活動実績が具体的にわかる資料（新聞記事、写真、パンフレット等）がある場合は、A4サイズで添付してください。